

B.A. (Honours) Examination 2014

Semester – III

Japanese

Paper H-6 (JP-VI)

Time: Three Hours

Full Marks: 40

Questions are of value as indicated in the margin.

問題 I 次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

5+2+3=10

自分の今までやってきた食べ方、料理のし方と違えば、少しおかしいと思うのは当たり前のことだがその理由をよく考えてみると、ただなれていないだけといふことが多い。最初は変だと思っても口にしてみると思っていたよりおいしかったということもよくある。世界中を旅している人に、どうしたらその土地の人と知り合いに慣れるのかと聞いてみると、「①かたことでもいいから、その人たちの言葉を話し、一緒におなか一杯食べ、のむことだ」という答えが返ってきた。

世界は広いのだから、トマトの②かわをむく人もむかないひともいる。かわがついているかいないかは問題ではなく、それよりも、同じテーブルを③かこんで、飲み、食べ、一緒に笑うことが大切だ。そうすれば、④とくべつな⑤どりよくをしなくても、いい友達を作ることができるということなのだろう。

1) 下線の①～⑤のひらがなを漢字で書きなさい。

2) それとは何か文章中の言葉で書きなさい。

3) 友達を作るために大切なことはどのようなことですか。文章中の言葉を使って書きなさい。

問題 II 次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

6+2+2=10

小学校四年生になる①近所の男の子が「赤は女の色だから」と言って、せっかく母親が買ってきたシャツをどうしても着ようとしなかったという話を聞き、私も同じようなことを言って母を困らせたことがあったなと、幼いときのことを思い出した。子供が五人もいたのに、すべて男。その子供たちに囲まれて一杯やりながら、父は決まって「一人でも女の子がいたらなあ」といったものだ。「私も女ですよ」父の②口癖に対する母のせりふも、判で押したように決まっていた。女の子を欲しがっていた父は、家の中に「女の色」が少ないからと言って、カーテンの色をピンクにしてみたり、私たち子供に赤の入ったセーターを買ってきたりした。(a) 私

は知らず知らずのうちに、父に「女の色」を教えられ、いつの間にか私の③描く女の子は、赤い服を着、ピンクのリボンをするようになっていた。そんな父だったから、④長男の私が結婚したときも、やっと自分にも女の子ができたと言って私の⑤妻を迎え、家の中に「女の色」が増えると言って喜んだ。しかし、父がどうして赤やピンクを「女の色」だと思っていたのかは、とうとう聞かずじまいになってしまった。

- 1) 下線の①～⑥の漢字をひらがなで書きなさい。
- 2) この人が、幼いときのことを思い出したのは、どうしてですか。
- 3) ()に入る言葉を次から一つ選びなさい。
(このように・こうして・つまり)

問題Ⅲ 以下の言葉を日本語に説明し、一つの例文を作りなさい。

2X5=10

- 1) 思い出
- 2) 目にする
- 3) 身につける
- 4) 気が合う
- 5) 頭にくる

問題Ⅳ 次の表現から五つ選んで、文を作りなさい。

1X5=5

- 1) ～ばそれだけで～
- 2) ～と同時に～
- 3) せっかく～
- 4) ～たまま(～のまま)
- 5) ～から～にかけて
- 6) ～てみると、思っていたより～
- 7) ～て(で)たまらない

問題Ⅴ 次の文を英訳しなさい。

5

毎日利用する電車は、日本人を知るのにちょうどよい教室のようなものです。日本に来たばかりのころは、朝の満員電車にどうして我慢できるのだろうかと思議でたまらなかったし、夜は、お酒のにおいをさせて座席で眠っているサラリーマンを見て驚いたこともありました。
